

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		むすびヶ丘大崎					公表日	2025年 3 月 19 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		2つの個別室と集団は広場を使っている。	集団の時に個別を併用できるようにしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		都の配置基準を満たしている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		大人用と子ども用のトイレがある。大人用は、暖房便座に変えて改善した。	トイレ入り口に段差があるため、バリアフリー化ではない。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日、掃除・消毒を徹底している。広場で粗大運動ができるようにしている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		ばななとりんごの2つの個別室がある。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		職員会議の日を設け、情報共有を行っている。PDCAサイクルができています。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者の意見を真摯に受け止め、改善に努めている。	個別の意見にも対応していく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		職員会議で都度話し合いを行っている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	1		現在、外部評価は行っていません。必要に応じて、本社と体制を整えていく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		外部研修には積極的に参加している。	外部研修は、都のお知らせが来たらすぐに申し込むようにしていく。事業所内では、毎月研修を実施していく。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1		3月末までに公表する。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		6か月以内にモニタリングを行い、保護者の意向を取り入れた支援計画を作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		サービス提供者会議を行い、指導員の意見も取り入れた支援計画を作成している。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援計画は指導員に共有され、支援計画に沿った教材を用意し、支援を行っている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		子どもの日々の様子をケア記録として残し、課題に応じた支援方法をみんなで検討している。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		定期的にアセスメントを行い、保護者のニーズに合った個別支援計画を作成している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		指導員同士で話し合い、チームで作成している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		巧緻性の課題の中で、季節の制作物を子どものレベルにあった作品を取り入れている。	活動プログラムが固定化しないよう、教材を増やし質の向上を図る。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		子どもの発達段階に応じた個別、集団における課題を見つけ、個別支援計画に反映させている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		朝礼で、その日の支援内容や分担について確認し、子どもの状況や変化を指導員全員が把握できるようにしている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		その日担当した子どものことについて申し送りし、次の療育に繋げている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		HUG（成長療育支援システム）を利用し、サービス提供記録やケア記録を活用している。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		6か月以内にモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		相談支援事業所からのモニタリングには、指導員が対応し、子どもの状況を伝えるようにしている。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		幼稚園・保育園等関係機関連携として園見学へ行き、情報共有を行っている。	保護者のニーズに合わせ関係連携機関と連携し、園見学を実施している。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		旗の台と連携し、並行利用や移行に向けた支援を行っている。支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		就学前には、事業所での様子など共有シートを作成し、連携を取っている。	
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1			必要があれば、今後検討する。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3		必要があれば、今後検討する。
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		療育後、フィードバックの時間を設け、指導員から課題の目的などの話をし、子どもの状況など伝え合い、情報共有を図っている。	
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		12月から毎月ペアレントトレーニングを行っている。	毎回全員参加できる時間を作る。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時丁寧に説明している。運営規程等の書類は、いつでも閲覧できるようファイルに入れてソファの横に置いている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		モニタリングの時、保護者の意見を傾聴し、個別支援計画に反映している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		6か月以内にアセスメント、面談を行い、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		毎月ベアトレを行い、子育ての悩み、相談を受け付け、必要な助言と支援を行っている。	保護者からの相談には、その都度迅速に対応していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	2		今後保護者会の機会を設ける。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		保護者からの相談の申し入れに迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3		HUGの保護者連絡事項を活用し、メールでのやりとりができています。教室の様子は、インスタグラムで発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人ファイルは、鍵付き書庫で保管している。パソコンも書庫に収納し、事務室も鍵をかけ十分配慮している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		子どもに合わせた意思の疎通や保護者とはHUGのシステムを利用し、いつでも連絡が取れるようにしている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		必要があれば、今後検討する。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		マニュアルを策定し、職員に周知している。避難訓練の実施をしている。	全員周知できるよう訓練を行っていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		マニュアルの見直しをしながら更新させている。	計画的に必要な訓練を行っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3		アセスメントの時、母子手帳をお持ちいただき、子どもの状況を確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		アセスメントの時、アレルギーの有無をお聞きし、小麦粉アレルギーの子どもには、粘土の使用を控えるようにしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全管理が十分された中で支援を行っている。	今後研修や訓練、その他必要な措置を講じていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3		避難訓練を行い、お知らせで周知している。	職員、利用者全員が参加できる避難訓練を行う。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		日々危ないと感じた時には、ヒヤリハット報告書を作成し、全体周知を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止研修を受けている。また、虐待防止委員会を設置し、身体拘束の適正化についての研修や職員のメンタルヘルスチェックなどを行っている。	年に2回以上研修を実施する。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3		身体拘束適正化検討委員会を設置し、指針の整備、定期的な研修を行っている。		